



からしだね

2020年7月号
(561号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

ノノイ・プラザ神父の巻頭言

「新しい日常・ニューノーマル」

THE NEW NORMAL Fr. Nonoy Plaza

ミサを再開した池田教会

—6月の主日ミサから—

みんなの談話室(三編)

皆様へ クリスマスカードのお願い

二〇二〇年 春から夏へ

「軍服の修道士 山本信次郎」を読みました

7月の行事予定

表紙写真について

— 公開ミサ 再開までの池田教会の歩み —

新しい日常・ニューノーマル

ノイ・プラザ 神父

「新しい日常(ニューノーマル)」という言い方が最近はやっています。世界情勢を知るためにさまざまな情報源にアクセスすると、その言葉がひんぱんに目に飛び込んできます。一部の国では厳しい外出制限を緩和し始めたので、公共の場所での人出が増えてきました。

自粛要請であれ、私の母国フィリピンを含め、多くの国で出された法に基づく封鎖であれ、そういう制限が数か月も続いたあとの今は、日常に戻った感があります。外出を控えるようにという規制が次第に緩和されてきたので、多くの人々はいささかほっとしています。

もちろん懸念は残っています。コロナウイルス感染症のワクチンが普及するときは来るまでは、その懸念と折り合いをつけていかねばなりません。でも今や、私たちは新しい日常に身を置いています。そう、バーやレストラン、教会や学校など、これまで休んでいた施設が活動を開始しました。でも対策はまだ取り続けなければなりません。

マスクをつけることは、以前から日本では習慣のようなものなので、多くの日本人にはそれほど苦にならないでしょう。ソーシャルディスタンスを保つことのほうが、ちょっと難しいかもしれません。なぜなら、いろいろな社会活動やスポーツや宗教活動に影響を及ぼすからです。

それでも公開ミサを再開してから、私たちはソーシャルディスタンスや衛生など必要な対策を取り続ける努力を懸命に重ねてきました。今の池田教会は念願の耐震工事中なので、なおさら難しい事態であると痛感しています。

でも神様のお恵みで、皆さんが協力してくれます。典礼委員会はたいへんな努力をして、各人の安全のために、いくつかの決まり事を守るよう信徒に働きかけています。ミサにあずかる人数がだんだんと増えるなら、二階の会議室や小さなチャペルのそれぞれにプロジェクターやテレビ・モニターが設置されていますので、ホールに入りきれない人たちは二階まで上がらなければならないとはいえ、ミサにあずかることができます。

以上のようなことすべてが、今の私たちが経験している「新しい日常」の一部です。パンデミックに直面して、私たちは自分に対しても他人に対しても、以前より辛抱強くなったのではないかと考えています。この気持ちを持ち続けましょう！ 以前の日常がいつ戻るのやら、誰にもわかりません。でも以前の日常だろうが新しい日常だろうが、いちばん大事なものは、自分の人生を毎日、精一杯生きるということでしょう。それとともに、このパンデミックが終わりますよう、主に祈り続けましょう。

The heading article

THE NEW NORMAL

Fr. Nonoy Plaza

The phrase “new normal” seems to be an “IN” phrase these days. Oftentimes, I come across it when I access different media platforms in order to know the things that are going on in the world. As some countries begin to ease severe restrictions, we now gradually see growing number of people in public places.

Now here is a semblance of normalcy after months of either self-imposed restrictions or of fully enforced lock-downs that we see in many countries, including my very own - the Philippines. When the call to refrain from going out has been eased more and more, obviously, many feel some sense of relief.

Of course, some apprehensions still remain. And we just have to get used to this until a vaccine against COVID 19 is finally available. But

for now, we simply find ourselves in a new kind of normalcy. Yes, the various establishments which had been closed, such as bars and restaurants, churches and schools, etc., are now open. But protocols still need to be observed.

Surely, wearing masks for most Japanese cannot be a big deal as it has been widely practiced here for many years. Probably, it is the need to observe safe distancing from one another that might be a bit difficult to practice. Why, because this affects a lot of our civic, sports and religious activities.

So far though, since the day we resumed public masses, we have been seriously trying to observe the necessary protocols of social distanc-

ing and sanitation. At the moment, we are very much aware how challenging this has been for us here in Ikeda, in particular, as our church is still undergoing the much needed earthquake resistant renovations.

But thanks be to God, everybody seems to be cooperating. The liturgical committee has been doing its best to remind the people of the protocols that have to be observed in order for each one to be safe. And when the number of churchgoers swells a bit, the meeting room upstairs as well as the small chapel are provided with a projector and TV monitor respectively, so that those who cannot be accommodated in the hall

can still participate in the liturgy even though they are asked to go upstairs.

All these are part of the “new normal” that we are going through right now. And I’d like to think that we have become more patient with ourselves and with others as we faced the pandemic. Let’s keep it up! As to when will that old normal returns, none of us knows. But whether it’s old or new, perhaps what matters most is that we try to live our life to the full, day in and day out. But at the same time, we continue to beg the Lord to put an end to this pandemic. Amen.

ミサを再開した池田教会 — 6月の主日ミサから —

ミサを再開すると連絡が届き、遠いトンネルを脱した気分がした。

年度の変わり目にさしかかった頃、大阪大司教区から「新型コロナウイルス感染防止の為公開ミサの中止」の要請を受け、復活祭を前に池田教会もミサや諸活動も中止になった。

折しも、池田教会は聖堂の耐震工事予定を控えている時期もあって、仮聖堂として隣接するカール記念館へミサがない期間に祭壇・椅子・オルガンが移動されていた。

5月21日付で大司教区より発表された「新型コロナウイルス感染症にともなう措置」により感染予防対策をしつつ公開ミサの再開が、5月30日の聖霊降臨のミサからと決まった。発表された措置については、『からしだね6月号』『からしだね6月号WEB版』を参照されたい。

措置のガイドラインに基づいて再開されたミサは、信徒はマスクの着用が必須、出入り口では手指の消毒をし、カール記念館1階から間隔を空け

て着席をする。満席になったときは、2階席も用意されている。

オルガンの音を聞き、沈黙をしつつミサ開始を待つ。時間となり、マスク姿の神父様、侍者（今は1人で、少し寂しい）の入堂、朗読、福音、説教と続き奉納は簡素に、献金については入口ですでに済ますことになっている。

平和の挨拶も穏やかに、神父様の手指の消毒後、順次席ごと典礼委員の誘導のもとスムーズに拝領が行われる。以後、とどこおりなく閉祭となった。退席も順次指示があった席から出口へむかい、玄関付近が混み合わないよう速やかに各自努める。

終始歌がないせいか静かなミサで、感染防止対策の為人数的にも密にならないように配慮され、窓を開け換気にも気くばりがなされている印象を受けた。ミサ再開にあたり、典礼進行や会場の準備を充分にしていたに感謝と安心の気持ちでミサにあずかれた。

と同時に、池田教会が集団感染の根源にならないように、終息まで『3密』を回避する意識を持ち続けたい。

広報委員会

7月のガラスケースのことば

わたしは、世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる

マタイ 28・20

みんなの談話室

池田教会の皆様へ クリスマスカードのお願い

いつも南アフリカへのお祈りありがとうございます。
例年なら皆様にクリスマスカードのお願いをさせていただく時期が近づいてきました。今の南アフリカの状況について、お知らせさせていただきます。

南アフリカでもコロナウイルスは蔓延し、深刻な状況になりつつあります。3月25日に始まったロックダウンは9週間に及び、医療関係などのエッセンシャルワーク(セント・フランシス・ケアセンターはこれにあたります)関係者以外は外出を禁じられました。

人々が失業し、働き先が倒産し、あるいはリストラされる状況に至り、困窮した人々の声に押される形で経済活動が始まりましたが、感染状況が落ち着いたわけでは決してなく先行きは非常に厳しいとのこと。セント・フランシス・ケアセンター内では感染者は出ていませんが、支援してくれていたボランティアや患者さんの家族などの出入りはできなくなり、さらに厳しいことに、寄付をしてくれていた人々や企業が、自分のことで必死という状況になってしまったため、センターの運営を支えていた寄付が干上がってしまったそうです。子どものおむ

つや洗濯石鹼を買う費用にも事欠いているようで、センターが無事に運営を続けられるか、本当に心配な状況にあります。セント・フランシス・ケアセンターの存続と、そこにいる皆さんの無事をぜひお祈りください。

このような状況下で郵便事情もどうなっているかわからないため、クリスマスカードを送っても無事に届くかはわかりません。でも、日本から祈っている気持ちを届けるために、皆様に今年もクリスマスカードを作っていただければと思います、お願いさせていただきます。

画用紙の配布はしませんが、手近なところにある画用紙や市販のカードなどに、皆様の名前とメッセージを書いていただけたらと思っています。

8月いっぱい回収期間とし、カール記念館の入り口に回収箱を置かせてもらっておりますので、ぜひ皆様の祈りを込めてご協力ください。皆様のお祈りはとても大きな力になります。どうぞよろしくお祈いします。

久保

二〇二〇年 春から夏へ

感染者数のグラフの傾きに合はせて
一喜一憂の春

わたくしの知りたいことに何一つ
答へてくれぬ専門家会議

延期、中止、自粛がつづく毎日を出口なき
トンネルとも思ふ

マスクしてゆく往還の傍らにしらゆり
夏の陽に輝けり

夏来ればあやまたず咲く夏の花その当然に
驚くわれは

「明日のことは明日自らが思ひ悩む」
マタイ六章三十四節

パウロ

「軍服の修道士 山本信次郎」を読みました

大正、昭和の時代に、バチカンと日本との絆を結ぶために力を尽くしたカトリック信者、山本信次郎海軍少将。私はその名前すら知らなかった。昨年、山本信次郎の伝記が出版され、彼の清廉な生涯と激動の時代での隠れた活躍が明らかとなった。

山本信次郎は明治10年に生をうけ、昭和17年に64歳で生涯を閉じた。その人となりを知って、感銘を受けたことは多い。その一つは、軍国主義だった日本において、カトリック信者の山本信次郎が、神と天皇という、二つの両立しがたく思える権威をどう受け止めていたかについてである。それは彼にとってはなんの迷いもないことだった。自分の学んだ暁星中学で、修道士たちが上司に完璧に忠実だったのを見ていたし、任務を果たすことの大切さを教わっていたので、天皇を敬い、忠誠を誓い、國を愛し、国法に従うことは、神を信じることと何の矛盾もなかったのだ。彼は愛国の士だった。

山本は藤沢市片瀬の名家の息子として生まれた。父の所有する洋館をマリア会の修道士たちが夏の家として借り受けたことから、カトリックとの縁が始まった。できたばかりの暁星中学への入学を熱望し、卒業すると、敬愛する神父の助言により、修道士の道を選ばず、海軍兵学校に入った。日露戦争の際には、旅順湾口での危険きわまりない機雷設置に携わり、日本海大海戦では東郷平八郎元帥の副官として旗艦三笠に乗り組んで戦った。暁星中学の4年間でフランス語が堪能になっ

た山本は、降伏したロシア指揮官との船上での交渉の際に、秋山真之参謀と二人でロシア軍艦に乗り移り、通訳をつとめた。まさに海軍軍人の出世街道を歩んでいた。

しかし、そのフランス語ゆえに山本の人生は変わる。若い皇太子(のちの昭和天皇)のフランス語教官を命じられ、やがて皇太子訪欧の随員として腕を振るうこととなる。皇太子を乗せた艦隊は一路ヨーロッパへ向かったが、実のところ、イギリス訪問以外は、何も予定が組めないでいた。しかし山本はカトリック信者としての立場から交渉をはかり、ヨーロッパ各国から訪問の約束を取り付け、教皇ベネディクト15世と皇太子との会見をも実現させた。そのとき皇太子はバチカンの平和に寄与する力、全世界に及ぼす力を知り、天皇になられてからも、日米開戦と同時に、教皇庁の仲介による戦争終結の道を模索された。昭和天皇と教皇庁とを親しく結びつけたのは、山本信次郎であった。

山本信次郎に関する数少ない資料から浮かび上がってくるのは、そのまっすぐな性格と篤い信仰である。カトリック信者として、日本の国のため、皇室のために尽くした、たぐいまれな生涯だった。

「軍服の修道士 山本信次郎」(皿木喜久著 産経新聞出版、令和元年11月発行)にご興味のある方は、本書をお貸しいたしますので、お申し出ください。

Y.N.

今月の表紙写真について

公開ミサ再開までの池田教会の歩み

2月28日に前田万葉大阪大司教から各小教区に向けて、新型コロナウイルス感染防止のために、公開ミサや各種の集会などの開催を中止するようという勧告が出された。それにともない、池田教会ではその翌日以降のミサが公開中止となり、残念ながら、受難の主日、聖なる過ぎ越しの3日間、その中心となる復活徹夜祭のミサなどすべて、信徒は参加できなかった。洗礼式も初聖体も延期となった。

聖堂の耐震工事開始の前に、カール記念館2階の主任司祭室に小聖堂が設けられ、聖櫃が安置された。いつでもだれでもそこを訪れて祈ることができるようになった。4月初め、仮聖堂として用いられるカール記念館一階には祭壇が設置され、44脚のベンチすべてとオルガンが搬入された。グランドピアノは置き場所がないため、残念ながら処分された。レターケースは記念館2階廊下に3カ所に分散して置かれた。こうしてノイ神父様の指揮のもと、総務委員会や有志の尽力で仮聖堂の準備が整った。

5月21日に、大司教区から発表された「新型コロナウイルス感染症にともなう措置(第8次)」により29日夜から公開ミサが再開されることとなった。それに先立ち、典礼委員会が5月24日に開催され、コロナの感染予防ガイドラインに沿って、ミサを行うための実施細目が決定された。土曜日夜のミサの開始時間を19時から2時間早めて17時からに定めて参列しやすくし、1階ホールが満席になった場合に備えて、2階でも音声と映像が見聞きできるように計らった。現在、信徒は土曜日と日曜日のミサに自主的に分散してあずかっているが、日曜日には一部の信徒が2階へ上がるなどして、混乱もなく粛々とミサがおこなわれている。

公開ミサが中止されたのは2月29日から5月29日まで、実に91日間に及んだ。

7月の行事予定

- 7/4 「からしだね」7月号発行。
- 7/4 アルファ・コースを中止。
- 7/5 典礼委員会開催。
- 7/11 ドレミの会を中止。
- 7/12 評議会開催。
- 7/19 社会活動委員会の開催は未定。
- 7/22 釜が崎訪問。
- 7/25 「からしだね」編集委員会を開催。
- 7/26 大人の日曜学校の開催は中止。

宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

■ 日帰り黙想会

7月23日(木) 10:00 ~ 15:30

指導: 染野治雄 神父

7月24日(金) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束 神父

■ 月例黙想会

7月8日(水) 17:00 ~ 9日(木) 15:30

指導: 山内十束 神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎ 0797(84) 3111



編集後記

郵便局へ行く用事ができた。日除けの帽子をかぶり、小さな袋に財布を入れ、ぼろかくしのカーディガンをはおり、最後にマスク。ドアに鍵をかけ、家を出て十歩歩いたところで気づいた。肝心の郵便物を持っていない自分に。老いた自分に愕然としながら、祈る。主よ、このように毫碌した私ですが、なにとぞ最後までお導きくださいませ。

ソフィー